

です。それからグループを作って、学習会をしたり、活動をはじめました。例えば、教師になろうとするもの、農業をやろうとするもの、私のように会社をつくっていきたいと思うものいろいろです。でも一人一人の「心」のなかにあるのは、ただこれから生まれてくる“子供”達が幸せに生きられるような「土づくり」をしようということなのです。

- (8)リクルートをひっぱり出して答えたいような珍問ですね。——技術的な問題にあまり傾く必要はないわけで、就職という問題を自分の一生をいかしていくべきかの問題として、大切な問題としてとらえることが重要でしょう。
- (9)どこも就職できなかったら神奈川の田舎まで出ておいで。(PRその2)——自分の夢を実現するのは、大学ではなく一生の仕事、生き方をつうじてであるなら、それを一步一步すすめるための青写真を大学時代に形づくるべく、よく寝、まず体からきたえていくべきか。とにかく目的をもって就職して下さい。

定末 修治 I群

- (1)シャープ
- (2)未定
- (3)一応学問が生かせるし、先生の推せんがあった。
- (4)初めの希望にはぜんぜんはいつてなかったけれど実際、就職戦線にのぞんでみると、非常にきびしいことがわかった。それで今はここに内定したことに満足している。
- (5)新しい学部ということで知らない企業が多く、学部名だけで、ける企業がずいぶんあった。
- (6)おそらく専門方面へ配属されると思うので、大学での専門科目も少しは生かせると思う。
- (7)一般常識の本などを買ったけれどほとんどやらなかった。
- (8)たいいていの会社で総合科学部とは何をやる学部であるかという説明を求められた。
- (9)今年はまだ特にきびしかったようで、自分で会社訪問しても競争率が高くむつかしかった。先生にまかせたのがよかったと思う。

犬飼 建雄 数理群

- (1)日立青梅電子工業所
- (2)東京都?市
- (3)Computer が使える

- (4)ほとんど希望通り
- (5)講義で関連したものが多かった。
- (6)多分、(使った経験 Computerがあるけど)有利……?
- (7)「大学生の常識」を少々。7~8月から。
- (8)公定歩合や円の問題などグーの音も出ず out!
- (9)きびしかった。経済問題、時事問題などなるべく気をつけておくように。

環境科学コース

森 重生

- (1)教職(高校・生物)
- (2)愛知県
- (3)・教育に強い関心があったから。・利潤追求でなく人間性が重要視される職業であると思ったから。・仕事の内容がよく理解できるから。
- (4)はい
- (5)よくわからない。学部、コースの説明がむずかしく、誤解されやすい点は問題。しかし、他学部より広い見地から学習できたという点で就職後はプラスに作用すると思う。
- (6)卒論の実験・セミナー、生物学およびその関連分野における勉強が、直接大いに生かすことができたこと(あまりうまくいかなかったのだが)は、将来のためにもよかったと思う。
- (7)7月ごろから。教職の試験に関する勉強。(生物学、教職教養)
- (8)別になかった。(珍問歓迎なのにまじめな質問が多くて残念だった。)
- (9)不況時なのできびしい就職戦線であったと思う。しかし、総科全体としては案外好調であったような気がする。はっきり目標を定めて、それに適した勉強を各自やっておくことが大切だと思う。

岸本 宏 III群

- (1)自家営業後継
- (2)愛媛県松山市
- (3)行くところがなかったの。
- (4)いいえ
- (5)いいえ
- (6)いいえ
- (7)いいえ
- (8)一方的に文系と見なされました。宣伝不足だと言われた。
- (9)きびしい。なし。

村田 格 地域環境専攻

- (1)鹿島建設
- (2)あっち県こっち市
- (3)・高水準の技術をもっている。・都市計画，地域計画といった方面にプランニングからタッチしたい希望を入学時より持っていたから。
- (4)半分。あとは入ってみないとわからない。
- (5)建設業界は不況であり，目新しい人材をとる余裕はないし，総科に合った試験を実施することはないと各企業より言われた。今の時代，就職向きじゃないネ。
- (6)当然配属によるだろうけど，蓄積された知識よりも見方，考え方といったソフトなものが影響するんじゃないかな。
- (7)しなかった。しいて言えば，ただ漫然と講義を聴くといったようなことでは時間のムダ，サボった

方がマシという考えで，結構批判的に，いろいろ「考えぬく」ことをやった。大学に，学部で絶望したけれど，それならなおさら次の季節のために「考える力」を低下させたくなかったんだ。

- (8)①「あなたみたいな学部の卒業生はどう使っているかわからない。」「そうでしょう。」
②「あなたはこっちの〇〇〇の方に向いてますよ。」と他企業推薦される。(Two times)
- (9)何をやりたいか気持を明確に。僕は個性を打ち出し，希望(無理なもの)を主張した。自分に魅力を感じてもらえるよう，また後悔せぬため自分を曲げない方がいいのでは。都会の学生にある表現力が必要。学力も大事(公務員関係は特に)。服装・髪はそう神経を使わず自分なりのファッションでいいみたい。理系は営業もネライ目。まあ僕も含めて，なかなか希望通りいくもんじゃないヨ。

< 進 学 予 定 >

質問事項

・名まえ(匿名可) ・コース

- (1)あなたの専攻は?
- (2)なぜ進学を選んだのですか。
- (3)学部在学4年間の研究成果をどう評価しますか。
- (4)大学院課程修了後の進路は決まっていますか。
- (5)総合系大学院設置計画についてどう思いますか。
- (6)進学のために勉強をされたと思いますが，いつ頃からどのような勉強を。
- (7)進学を希望している学生に向けて何かアドバイスはありませんか。

川田 良一 地域文化コース

- (1)日本研究(歴史学)
- (2)“なぜ?”と言われても困りますが……理由のないのが，理由のような気がします。ただ，体が弱いということが，いつも心のどこかにあるので，そのことも無関係ではなかったような気がします。
- (3)研究成果があれば評価のしようもあるのですが，僕には，そのようなものは，ありません。学部段階では少し無理なような気もします。
- (4)大学を出たから……，大学院を出たから……，といて僕の生き方が変わるとも思いません。僕の思うように生きるだけのことです。ただ，生活の手段は，二・三考えています。
- (5)教官や学生の気持ち次第だと思います。
- (6)卒業論文だけで精一杯でした。その論文さえ，人

並に書けるかどうか心配しています。

- (7)体に気をつけて，がんばってください。

森井 康幸 情報行動科学コース

- (1)人間行動研究(なぜか動物実験をしましたが)
- (2)新しい学生証がほしかった。および就職する気にならなかったというのも理由のひとつになりますか。
- (3)果して何か研究をしたのでしょうか。惰性に流されてここまで来たという感じです。
- (4)予定は未定。決定はEntscheidung。ようするに決っていないのです。(本音はむやみやたらと，はくものではないということを知りました。)
- (5)わかったようでわからない。実にへんてこりに系区分がなされているように思う。とにかく大学院を創ろうという考えでできているように思う……。なんてグチをあげればきりがありませんが，入学させていただいた暁には，住めば都となるでしょう。我ながら実にいいかげんと思っています。
- (6)52年6月ごろからほんとひさびさに，ドイツ語の文法などをながめはじめましたが，6月末から8月末までは長期療養のため何もできず，現在に至っております。
- (7)月並みなことしか言えませんので……。まあガンバッテください。勉強もいいですが運動不足には注意しましょう。

白木 幸久 情報行動科学コース

- (1)人間行動 卒論では心理学という“発達”と“臨床”と“社会”の接点の“発達”より
- (2)家族の希望。就職するにもUターンできそうもないし、モラトリアム傾向が強。その勉強意欲は、大学時代と変わらないであろう。
- (3)研究成果などと大げさなものはない。入学しての3年間は興味ある本(関連分野)を読んだだけ。卒論にしても今はなんともいえない。
- (4)“どこどこで、なにになにをする”ということでは決まっていない。就職するということではいろいろな会社を訪問した人は多いのではないか。
- (5)構想は非常にいいと思う。地域研究の諸君と環境科学の諸君にとっては。
- (6)受験勉強のような勉強はしていない。したくても

4 先生方の談話

四つの大きな柱を

山田浩先生にきく(社会文化コース)

結局いろんな方面に進むことになった一期生だが、私個人の意見としては、これからの総合科学部生の卒業後の進路指導として、学部のカラーをうち出しアクセントをつける意味で四つの大きな柱を方針として立てるべきだと思う。その四つとは就職では公務員試験とマスコミ関係に、進学では総合科学部大学院および他大学大学院入学に重点を置くことです。公務員とマスコミ関係の就職に重点を置くのは、総科の学際的な性格とカリキュラムがこのふたつの就職をめざすのにたいへん向いているからです。公務員では特に上級職に毎年最低一人以上の合格者を出したいですねえ。もちろんこれは大変な難関ですが、たとえば社会文化ではいま民法や経済学の自主的勉強会を行なって今年のための準備がやられていますね。一番希望者が多くて一番入りにくいのがマスコミです。いま言ったような意味で、ウチなんかまさに「マスコミ向き」の学部じゃないかと思うんだが、現実はやはり厳しくマスコミ就職はわずか二人だった。その大きな原因は学生側の準備不足にありますな。ここをめざすものは共にグループでも作って早くから準備勉強を始めないと、東京の私大の学生なんかと太刀打ちできませんよ。とにかく一次試験だけは突破せんことには……。今度の総合科学部の就職は、学部の社会的知名度がないことと卒業生がひとりもないという、ふたつの決定的に不利な条件

卒論ができあがるまでは手につかず。

- (7)3年のうちにある程度、卒論のメドがつけばいい卒論がかけると思う。そして4年時にも進学のための時間がとれるのではないか。

藤本 睦 環境科学コース

- (1)地質学
- (2)進路を決めかねているというのが正直な所
- (3)専門に入ったのが4年になってからで、いままでの研究の評価からいくと、微々たるものであろう。
- (4)全く未定。
- (5)まだ何ともいえない。
- (6)いまからやります。
- (7)(こちらが)教えてほしい。

を背負っていた。面接にいった諸君には必ずといってよいほど「総合科学部とは何ぞや?」という質問が集中したという。ウチの学生は他の既成学部生に対し、総科には専門性がないという妙なコンプレックスがあるらしく、こういう質問を受けても自信をもってはっきり答えられなかったと聞くねえ。だいたいどの学部でも学部段階ではほんとうの専門教育とはいえないで、たとえば法学部なんて法学的な一般教育を四年間やっているにすぎんです。真の専門課程とはそれから上の段階を指して言うんだ。企業が学生に求めるのは、そんな専門知識のかけらでなく、その人物の知性、判断力、思考の柔軟性、ファイトの有る無しなどです。総科の学生は他学部の学生に優位を感じることはあってもひけめを感じることはないはずだよ。しかしともかくも一期生は予想以上に「善戦」しました。今回は旧制広高同窓会の力もかなりプラスになりました。総合科学部の同窓会を作り連絡を密にすることも残された課題のひとつだろうね。

ひらめきと人一倍のファイト

安田三郎先生にきく(情報行動科学コース)

今手もとに資料がないので断片的なことしか申しあげられないのですが、今度の就職状況を見て受けた印象は二つあります。ひとつは、企業の採用試験や公務員試験を受けて思いの外出来なかったという声を学生諸君からよく聞いたこと。私は広大に来る

まで東京に長く居たんですが、東京の学生なんかと較べるとどこかのんびりしていますね。東京では二流といわれる私立の学生でも必死で準備勉強をしますよ。もうひとつは、そういう声を聞き不況といわれながらも意外に好成績を収めたことです。これは讃えられてよい成果じゃないでしょうか。特に情報の学生について言えば、「群」を問わず案の上コンピューターを使える学生は強かったといえます。割合大企業に就職していますし。進学希望者は比較的多く特にⅢ群は目立ちます。他大学の大学院へ入学を考えている学生もいますが相当に難しいといわねばなりません。その割には私には学生諸君の姿勢が少し甘いように思えるのです。大学院へ進んでより高い研究を志すのであればもう少しやる気を見せてくれていいんじゃないでしょうか。私は就職や進学のことに限らず何か成功する学生には二つのことが必要だと思っています。それはひらめきと人一倍のファイトです。同じ人間なのにどこにあれほどのエネルギーがあるのかと思うほどのファイトです。自分のことをいうのは何ですが、私は学生時代、2年の夏休みに何か洋書を一冊読んでレポートを書くという課題を出されました。同じ課題をここで反対に先生として諸君に課しています。四枚程度しか書いてこない人もいますが、私は学生の時これだけ書きました。←——と先生はすっかり古びて黄色くなった厚さ7センチほどの分厚い本らしきものを取りだされた。何だろうと思って見るとそれは原稿用紙を綴じたものだった。四百字詰め原稿用紙163枚がそのレポートをこれだけ分厚くしているのだった。>

課題は理系の職場の開拓

鈴木達彦先生にきく（環境科学コース）

環境科学の就職希望者は一応全員決定しましたから、まあはじめ想像していた以上にうまくいったという感じですね。しかし「環境科学」という特異な経歴を生かして全部が全部就職できたとは残念ながらいいない。知っての通り、昨今は特に理系出身の学生の就職が全般的にむずかしく、専門とは関係ない営業部門でしか採用されないことが少なくないのです。理系は理系の知識と技術で身を立てることが本来の姿でしょう。公務員と教職は、現在その最も堅実な就職口でしょうね。もちろん環境科学に関心をもってくれそれで採用してくれた企業もあります。先生方のP.Rもかなり利いて、以外におもしろいところが関心をもって環境科学を考えてくれたこ

とは、前途に希望を残したといえるんじゃないか。手ばなしで楽観視できるものでもないが、決して悲観的になる必要はない、そんなところでしょ。企業にとってこれからは環境科学を切り離して考えることはできない状況なんですから。大学院進学予定は三人。大体この大学院に入学するつもりらしいけれど、当然公開募集になってよその大学や学部からも受験に来るだろうし、いささか有利とはいえ勉強しなくちゃいけないでしょうね。環境科学コースの課題としては、理系の知識と技術で飯が食えるような職場を開拓すること、特に公務員試験を重視すること、それに研究機関に優秀な学生を送り込む準備をすることだと思います。

きびしい女子の就職

村上誠先生にきく（地域文化コース）

「まあまあのところ」というのが地域文化をみての感想ですな。若干の未定者もいますが、よくやったと思いますよ。就職先はバラエティに富んで千差万別。しかし自分の専門と求人側の要求とがびったり合った例は少ないですね。これは企業の方の地域研究というものに対する理解が浅かったことがその一因です。まあ元来この学問は実際的に役立つといったものではありませんから、しかたのないことかもしれません。ところで私自身の感想として、四つのコースをみて特に地域の学生は就職に対する取組や姿勢が少し甘いという感じがしますね。教職試験なんかもう少し受かってもいいと思いますよ。確かにカリキュラムなど教職向けに組まれてはいませんが、それでも試験ぐらいい合格できる実力があってもいいと思います。英米専攻・副専攻外国語でも英語の教職に落ちるんですから。それから他のコースに較べると教官側の就職開拓が少し足らなかったことも反省していいです。女子の就職、これがまた厳しかった。民間企業では無いに等しいんじゃないですか。「くちなしの花」ですわ。特に来年の地域文化には女子が多いので心配です。最も堅実な女子の就職は教職と公務員のふたつでしょう。教員をめざすなら早くから受験科目を決めなさい。来年は今年以上に厳しくなるでしょう。就職口を開拓するのは先生の務めでしょうが、学生も状況を把握して確実な歩みで就職戦線に望むことです。（文責・編集部）